

文部科学省 平成30年度 専修学校による地域産業中核的人材養成事業
「モノづくり産業におけるイノベティブ産業人材教育プログラム開発事業」

シラバス・基本設計書
【 コンピテンシー領域 】

平成31年3月

本報告書は、文部科学省の委託事業として、公益財団法人 国際人財開発機構が実施した平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

目次

- 1、カリキュラム・シラバスについて P4
- 2、シラバス設計に際しての考慮事項 P5
- 3、“イノベーター型産業人材教育プログラム“シラバス
（1）コンピテンシー領域・シラバス P6

1、カリキュラム・シラバスについて

専門学校研究科1年制で運用する850時間以上のカリキュラムを開発する。6ページの表で示したカリキュラムの概要と構成科目を基本的な検討の土台として、領域設定や各領域を構成する科目、学習時間の検討を行う。

カリキュラム作成後、各構成科目のシラバスの作成を行う。初年度は特にコンピテンシー領域を構成する科目群を対象に検討する。シラバスは、科目ごとに学習概要、前提知識、成果目標、学習時間数・コマ数、各学習回の学習テーマ、使用教材、評価方法を記載する。各項目の記載事項の概要を以下に掲載する。

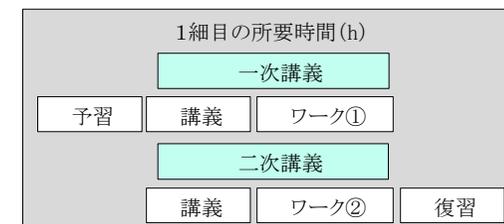
項目	概要
学習概要	当該科目内で取扱う学習内容や学習方法、学習の目的・趣旨などを簡潔に記載する。
前提知識	当該科目の学習を進めるにあたって、前提となる知識等を記載する。特に、基礎科目群との紐づけを行う。
成果目標	当該科目の学習を経て、最終的にどのような知識または能力を身に付けることを目標とするのかを記載する。
学習時間数・コマ数	当該科目の総時間数・コマ数を記載する。1コマは1.5時間として計算する。
各学習回の学習テーマ	実施する各学習回において取り扱う主な学習テーマについて、キーワード等を取り入れながら記載する。
使用教材	既存教材または新規開発教材を記載する。
評価方法	試験、レポート提出、実習、授業態度などの評価方法を記載する。

2、シラバス設計に際しての考慮事項

“一年制研究課程”“の各科目のシラバスについては、研究生の“先進性”と“やる気を促すこと”を考慮した授業の実現を目指す

【コンピテンシー領域カリキュラム】

科目区分		科目内容		単位区分	授業形態
領域科目	《1》 コンピテンシー領域	プロジェクトを推進する上で必要なソフトスキルを訓練する		必須	講義 ワーク
		1	問題発見力(ニーズを見出す為の見極め手法)		
		2	コミュニケーション力(目標達成に向けたネゴシエーション手法)		
		3	情報収集・分析(目的達成に向けた必要情報収集・分析手法)		
		4	チームワーク(目標達成に向けたプロジェクト推進・管理手法)		



【コンピテンシー領域・授業計画】

科目区分【職務】		科目内容【能力ユニット】		指導内容	授業時間(h)	1細目の所要時間(h)
領域科目	《1》 コンピテンシー領域	プロジェクトを推進する上で必要なソフトスキルを訓練する				
		1	問題発見力(ニーズを見出す為の見極め手法)	○5細目	45	9
		2	コミュニケーション力(目標達成に向けたネゴシエーション手法)	○5細目	45	9
		3	情報収集・分析(目的達成に向けた必要情報収集・分析手法)	○5細目	45	9
		4	チームワーク(目標達成に向けたプロジェクト推進・管理手法)	○5細目	45	9

3、“イノベティブ産業人材教育プログラム”シラバス

(1) コンピテンシー領域・シラバス

学年	1年	単位区分	必須	単位数	担当教員	アシスタント
【キーワード】		・課題発見 ・コミュニケーション ・情報収集・分析 ・チームワーク				
【到達目標】		・ニーズを見出す ・目的達成に向けたネゴシエーション ・目的達成に向けた必要情報収集・分析 ・プロジェクト推進・管理				
【授業計画】						【評価の方法】
【1】 問題発見力 (ニーズを見出す為の見極め手法)	1	組織・体制と各機能組織の役割				試験(100%)で評価する、60点以上を合格とする
	2	組織の事業運営ルール				
	3	経営を取り巻く環境と変化				
	4	業績と経営課題				【履修上の注意事項】
	5	将来への挑戦				
【2】 コミュニケーション力 (目標達成に向けたネゴシエーション手法)	1	責任者の目的・狙い・要望・条件の確認と号令				1 授業は目標別にチームを編成し、授業テーマ別に講義・討議・結果集約を展開し最終的にチームとしての課題解決手順・手法をつくる
	2	構想の評価要件別・責任者からのアドバイス				
	3	評価要件別の役割担当の情報入手・根拠ある意見(一次結果)				
	4	目的達成に向けた意見に対する生産的会議(二次結果)				2 その授業の成果物をクラス全員に発表できる機会を設け、チーム別に発表をおこないクラス全体で検証・評価とご指導を頂く(中間試験)
	5	一次・二次結果の目的達成に向けた論理的検証とその集約(構想化)				
【3】 情報収集・分析力 (目的達成に向けた必要情報収集・分析手法)	1	目標達成プロセス・作業内容・成果物の確認				3 また、各自が就職先目標を設定し、授業テーマに沿って「予習」「復習」でレポート(各自・課題解決手順・手法)を作成・提出する
	2	作業別の必要情報と調査・入手・分析手法及び注意事項の確認				
	3	必要情報別の入手スケジュール及び役割分担				【授業外学習(予習・復習)の指示】
	4	必要情報の調査・入手及び情報管理				
	5	入手情報の分析・分析結果の管理				
【4】 チームワーク力 (目標達成に向けたプロジェクト推進・管理手法)	1	目的・狙いの明確化と視点の形成及び責任者の号令				1 授業計画を参考に教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	2	テーマに対応したプロジェクトの編成と体制の明確化				
	3	目標達成に向けた論理的プロセスと成果物及び役割分担の明確化				2 授業で学んだことについて教科書の問題を解くことなどでより理解を確かめること
	4	短時間・全員参加・成果物創出型の会議手法				
	5	成果物の積上げによる根拠ある構想の取り纏め手法				
【教科書・参考書】						
・コンピテンシー領域教材 ・バックデータ(企業・実態調査情報)						
【オフィスアワー】						

平成30年度 文部科学省「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」委託事業
Society5.0等対応カリキュラムの開発・実証
「モノづくり産業におけるイノベティブ産業人材養成プログラム開発事業」

実施委員会委員

駒込和貴 公益財団法人国際人財開発機構 理事
児玉紀裕 学校法人 大原学園 事業部長
武田陽一郎 学校法人 大原学園
石原明人 学校法人 田中育英会
飯田有登 学校法人 東京町田学園 理事・教頭
渡邊康祐 学校法人 滋慶文化学園 教務部長
久保全弘 愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科 責任者
千葉武彦 NDIソリューションズ株式会社 部長
池内信弘 日本プロジェクトソリューションズ株式会社 部長
増田洋一 株式会社第一コンピュータサービス 代表取締役
後藤貴徳 レッツスポーツ株式会社 代表取締役
齋藤桂三 有限会社ケッズグループ 会長
小湊宏之 川崎市工業団体連合会 ICT連携担当理事
小間田興二 NPO法人ECML21 特別顧問

平成30年度 文部科学省「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」委託事業
Society5.0等対応カリキュラムの開発・実証
「モノづくり産業におけるイノベティブ産業人材養成プログラム開発事業」

シラバス・基本設計書
(コンピテンシー領域)

平成31年3月

公益財団法人 国際人財開発機構
東京都港区西新橋1-20-3